

# 令和5年1月 経営経済動向調査結果（要約）

## 宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会

宇城久地域ビジネスサポートセンター（宇治商工会議所・城陽商工会議所・久御山町商工会）

宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会では、景気動向を把握するために、宇治・城陽・久御山区域内に有する企業を対象にアンケート調査を行った。

今回は、令和4年7月～12月期実績と、令和5年1月～6月期予測についての調査を本年1月に実施。518社から回答（回答率51.8%）を得た。

### 1. 業界の景気

各企業が感じる“業界の景気”状況を全体的にみると、令和4年下期実績BSI値は▲6.5と前回実績調査の▲8.1に比べて1.6ポイント回復しており、予測値▲8.3の悪化よりもマイナス幅が小さい結果となった。業種別にみると、飲食業が前回実績調査より9.1ポイント大きく回復しているが、卸・小売業、運輸・通信業、建設業は前回実績調査より悪化した結果となった。規模別では、B規模企業は1.5ポイントの回復となった。A規模企業は予測値が5.4であったが、実際は▲0.5のマイナス値となった。

業界の景気 項目 業種	令和4年1月～6月 実績			令和4年7月～12月						令和5年1月～6月 予測		
	上 昇	下 降	B S I	上 昇	下 降	B S I	上 昇	下 降	B S I	上 昇	下 降	B S I
全業種	22.1	38.3	▲8.1	22.4	38.9	▲8.3	24.3	37.2	▲6.5	18.6	36.3	▲8.9
製造業	24.9	35.8	▲5.5	25.5	30.0	▲2.3	28.8	35.4	▲3.3	21.3	33.8	▲6.3
卸・小売業	20.0	47.1	▲13.6	14.4	56.5	▲21.1	18.8	48.2	▲14.7	18.1	50.6	▲16.3
飲食業	14.7	41.2	▲13.3	24.2	42.4	▲9.1	29.2	37.5	▲4.2	22.9	39.6	▲8.4
運輸・通信業	25.0	33.3	▲4.2	33.3	25.0	4.2	28.6	42.9	▲7.2	21.4	42.9	▲10.8
建設業	21.4	35.7	▲7.2	14.3	46.5	▲16.1	13.2	36.8	▲11.8	6.0	32.8	▲13.4
サービス業	19.1	38.3	▲9.6	26.1	43.5	▲8.7	22.0	27.1	▲2.6	18.3	26.7	▲4.2
A規模企業	27.7	33.7	▲3.0	34.9	24.1	5.4	26.0	27.0	▲0.5	25.0	26.0	▲0.5
B規模企業	20.8	39.5	▲9.4	19.2	42.6	▲11.7	23.9	39.6	▲7.9	17.0	38.8	▲10.9

（注）BSI値とは、企業経営者の景気全般の見通しについて、強気、弱気の度合を示すもので、プラスならば「強気」「楽観」、マイナス（▲）ならば「弱気」「悲観」を意味する。

算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引きし、2分の1を乗じて計算する。

またA規模企業は従業員20人以上の企業で、B規模企業は19人以下の企業。

### 2. 企業経営動向

#### ・生産高又は売上高

全業種の令和4年下期実績BSI値が▲2.4で、前回実績調査の▲7.4に比べて5ポイントのプラスとなり、予測値以上の数値改善がみられた。業種別にみると、製造業でプラスに転じ、運輸・通信業で13.1ポイント、飲食業において9.9ポイント回復するなど、マイナス値であっても、1桁台に収まっている。規模別では、A規模企業は前回からプラス値にあり、6.2ポイントの増加、B規模企業は4.7ポイント回復という結果になった。

## ・仕入価格

全業種の“仕入価格”をみると、令和4年下期実績BSI値は▲37.1という結果であった。業種別にみると、建設業のみBSI値が1.9ポイント改善、その他の業種は悪化しており、運輸・通信業が5.9ポイント減少しており最も苦しい状況にある。規模別では、A規模企業は3.9ポイント、B規模企業は0.8ポイント悪化。業種や規模を問わず、仕入価格高騰の影響を受けている状況が窺える。

(※本項目のBSI値は「価格上昇」を「悲観」としマイナス)

## ・借入

“借入”について、全業種の令和4年下期実績BSI値は▲0.1という結果であった。業種別にみると、プラス数値となったのは製造業、卸・小売業であり、その他の業種は0かマイナス数値となっている。前回実績調査でプラス数値となっていた運輸・通信業は、今回▲23.1と借入増加企業が増えた結果となった。規模別では、A規模企業は借入減少よりも増加が上回り1.3ポイント減少、B規模企業は1.0ポイント増加で借入減少となった。

(※本項目のBSI値は「金額増加」を「悲観」としマイナス)

## ・雇用

“雇用”について、全業種の令和4年下期実績BSI値は▲3.1で、前回実績調査のプラス値から3.2ポイント減少しマイナス値となった。業種別にみると、全ての業種でマイナス値となっているが、卸・小売業、運輸・通信業で改善がみられる。規模別では、A規模企業が0.6ポイントの増加に対し、B規模企業が4.2ポイントの減少という結果となった。

### 3. 当面の経営上の問題点

全企業で最も多い回答は前回に引き続き「原材料価格高」で、61.8%という結果となった。業種別にみても前回同様、製造業、卸・小売業、飲食業、建設業において、問題点の1位として挙げられている。ついで「売上・受注不振」が42.3%、「求人難」40.0%、「人件費の高騰」29.0%の順になっている。

### 4. セミナーを開催する場合、どのセミナーを希望されますか

複数回答で459件のいただいた回答の中で、1位が「販路開拓」で112社(24.4%)と最も多く、2位が「インボイス制度」で108社(23.5%)と100社を超えている。3位が「働き方改革」、4位が「DX推進」、5位が「経営計画作成」となった。一方、「その他」の回答として「確定拠出年金について」、「補助金、助成金について」、「新卒採用や求人、人材育成について」、「BCP策定支援」、「原価計算簿記について」、「SNS活用について」、「M&Aについて」などが挙げられている。

### 5. 円安・原油高の状況下、現在取り組み中、または今後実施したい取り組みについて

複数回答で621件のいただいた回答の中で、最も多い回答は「国内販路開拓」で183社、回答事業者の45.2%が選択している。ついで「新分野への進出」の124社(30.6%)、「省エネ設備へ変更」が105社(25.9%)、「円安影響による仕入先開拓」が44社(10.9%)という結果になり、取引先拡大に関する項目が上位にあがった。一方で「海外販路開拓」は32社(7.9%)、「外国人観光客への対応強化」は20社(4.9%)、「海外営業所増加」2社(0.5%)というように、海外への取り組みには消極的となっていることが窺える。